知っておきたい！就活マルトクデータ

就職活動は学生本人の挑戦ですが、その背後には家族の支えがあります。本冊子では、新入社員の声から見えた『家族のサポートのあり方』を紹介するとともに、就職内定率や活動スケジュールなどの最新データをまとめました。就活に取り組むお子さまを支える際のヒントや、就職動向データ・活動スケジュールを掲載しています。

また、『家族にこうしてもらって嬉しかった』では、新入社員の方々にアンケートをお願いし、リアルな声を集めました。保護者としての関わり方を考える一冊となっております。お子さまの未来を安心して見守り、支える一助としてご活用ください。

各学校の一般的な就活スケジュール

高校生は県毎にさまざまな就活のルールがあるので、理解や学校への確認が必要です。例：10/15までは1人1社まで、10/16以降は1人2社までの複数応募等

高校生

2年　卒業年度（3年）スタート　卒業

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自己分析／企業業界分析					求人票公開・検討								
								9/5～企業へ応募書類提出 9/16～選考・内定通知					

※2年生時にインターンシップに参加する場合があります。

専門学校等では専攻学科によって就活時期が異なることが多く、注意が必要です。

専門学校（2年制）

卒業前年度（1年）　卒業年度（2年）スタート　卒業

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自己分析／企業業界分析																		
							企業説明会						内定					
										選考・応募書類提出								

※企業によってインターンシップ・職場体験に参加する場合があります。

大学（4年制）

卒業前年度（大学3年）　卒業年度（大学4年）スタート　卒業

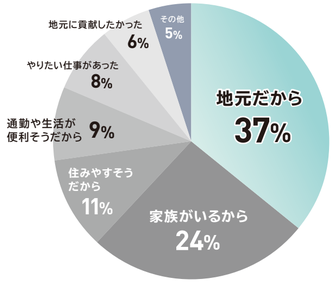
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自己分析												企業説明会											
業界・企業・仕事研究												選考・エントリーシート提出											
インターンシップ等申し込み・参加																							
												内々定						内定					

就職活動のスケジュールは年々早まりつつあります。マイナビ「大学生キャリア意向調査」によると、2026年卒（2025年6月末時点）の大学生内定率は82.8%。さらに、大学3年生の3月1日時点で43.1%となっています。最近では、大学3年生の夏や冬のインターンシップをきっかけに内々定が出るケースも増えており、4年生で就職活動を始めると、企業を選ぶ幅が狭まってしまう可能性があります。大学1年次から就職を意識し、準備を始めることが重要になってきています。

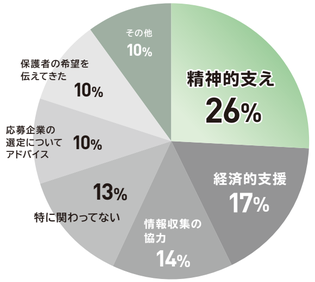
「いま伝えたい、新入社員の本音」 家族のつながりが、これからのキャリアを育んでいきます。

就活に取り組むお子さまを、保護者が支える際のヒントに!!
※徳島県内の企業で新卒採用された59人の方にお答えいただきました。
※複数回答可の設問も含まれています。

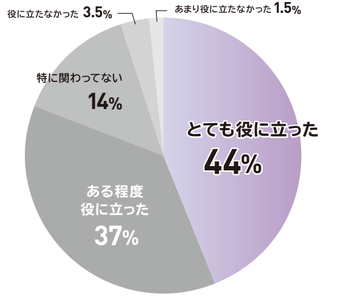
徳島県で就職した主な理由は何ですか？



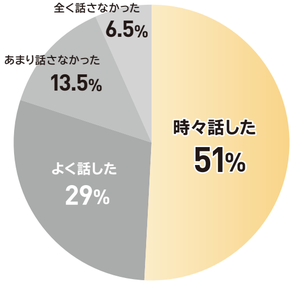
就活において保護者はどんな形で関わりましたか？



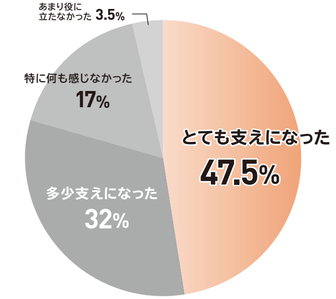
保護者からの関わりは就活で役に立ちましたか？



進路や将来について保護者と話す機会はありましたか？



保護者からの関与をどのように感じましたか？



今回の調査から、就職先を徳島県に決めた理由として「家族や地元とのつながり」が大きな決め手になっていることが分かりました。就職活動における保護者の関わり方については、さまざまな形で子どもを支えている様子が窺えます。一方で「特に関与していない」という回答も一定数あり、家庭ごとに関わり方が異なることも特徴的です。実際にその関わりが役立ったかどうかについては、「とても役に立った」「ある程度役に立った」と答えた人が大半を占めています。また、保護者のアドバイスについても押しつけにならず、「子ども自身が判断する材料」として受け止められていることが分かります。総じて、保護者の関与はプレッシャーや負担として受け取られることは少なく、励ましや見守りが大きな支えになっていることが確認できました。日常の声かけや安心感の提供が、就職活動において非常に重要な役割を果たしていると言えます。

★地方就職を決めた理由・地方就職をしなかった理由「LO活 就職先決定調査アンケート 2024」より★

地方圏就職者が地方に就職を決めた理由

- 地元で暮らしたかったから 35%
- 地元に貢献したかったから 13%
- 生活のベースがあっているから 11%
- やりたい仕事があるから 11%
- 実家から通いたかった 9%
- 家族の状況を考慮して 6%

地方就職者は「地元での暮らしや貢献」を重視し、都市圏就職者は「仕事の内容や条件」を優先する傾向が見られます。就職先を選ぶ際には、それぞれの価値観を尊重し、対話することが安心した選択につながります。

都市圏就職者の人が地方に就職しなかった理由

- やりたい仕事が都市圏にしかなかった 17%
- 採用された企業がとても気に入ったため 16%
- 都会で生活したかったため 12%
- 地方就職という考え自体がなかった 12%
- 都市圏の企業の方が労働条件が良かった 10%
- 都市圏の企業の方が先に内定が出たため 6%

アンケートではこんなリアルな声も！

就活の中で、学生たちが家族に対して感じたことを素直に記入してもらいました！

保護者からの支援の中で印象に残っていることは？

就職の支援は想定通りでしたが、いつもと変わらない感じが心のまえや安心感につながったのかなと思います。

「がんばりたいことやしたいことを大事にできれば仕事については何でもいいよ」と言ってくれたことが心の余裕につながりました。

「好きなところで働いたらいいよ。どんなところでも自分らしくね。あなたなら大丈夫。幸せになってね」と言われたのが印象に残っています。

面接では覚える事が多くあったので、帰宅後に練習したり、履歴書を何度も確認してもらいました。

●スーツ代など、経済的に支援してくれたのが助かりました。
●面接の受け答えなど、話し方をアドバイスしてもらいました。
●自分の良さをアピールしてこいと言われたのを覚えています。

自分が保護者になった時、子どもの就活にどのように関わりたいですか？

過去の出来事や自分の就職活動の内容を伝えつつ、本人の意思を尊重して関わっていきたいです。

意見を求められた時には、アドバイスをするけど口出しもしすぎない。自分で企業探しや企業選びをさせたい。自分で考えるように促したいです。

子どもの意見を尊重しながら応援してあげたいと思いました。自分がしてくれたことを子どもにもしてあげたいです。

過干渉しすぎず、プレッシャーを与えないようにしたい。自分の価値観を押しつけるのではなく、子どもの意見を尊重したいです。

●全銭面で諦めなく良いように経済的に支援したいです。
●子どもの希望に寄り添って、積極的に関わりたいです。
●希望の就職先を後押しするように関わっていきたい。